



幼保小の架け橋プログラムに関する調査研究事業

川越市教育委員会



01
現状



02
令和4・5
年度



03
令和6
年度



01 現状

川越市の現状



川越市マスコットキャラクターときも

子どものよりよい成長を考える研修

市内幼稚園・保育園・認定こども園及び市立小学校教諭が参加する研修会。年1回開催している。

本年度は、文部科学省教育課程研究センター研究開発部教育課程調査官 齋藤博伸氏を招き「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえた連携の在り方」について御講演をいただき、その後グループ協議を行った。

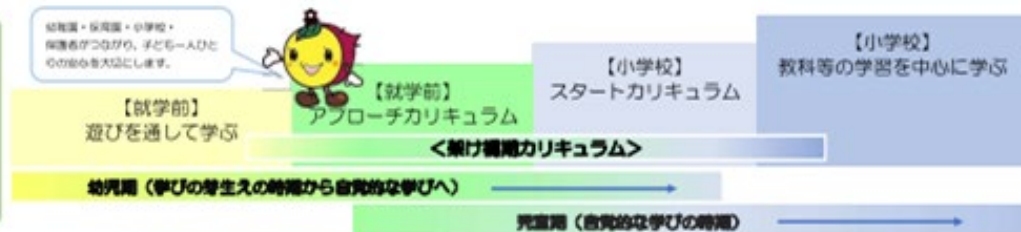
幼保小連絡懇談会

今年で46回目となる懇談会。年1回1月下旬から2月上旬にかけて実施。市内を6つのグループに分けている。本懇談会は、「幼稚園、保育園及び小学校低学年の保育や教育の現状を相互に知ることによって、幼児教育について理解を深め、その充実を図る」ことを目的としている。令和5年度から3年間は、幼児期の終わりまでに育ててほしい姿を手掛かりとした子どもたちの資質・能力の育成を研究主題とし、川越市ときも学びのプロセスを活用し、幼保小連携の在り方を考え、取り組んでいく。



子どもの発達や学びは、幼児期から児童期を通じて進み、さらに将来にもつながっていきます。
一人ひとりの子どもの発達や学びを、切れ目のないようにつなぎ、次の段階で一番発達できる教育・保育を目指すために「ときも学びのプロセス」を活用していきます。

幼稚園・保育園・小学校・保護者がつながり、子ども一人ひとりの成長を大切にします。



子どもの育ちや学びの見通しをもつために「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有しましょう。

- (1)健康な心と体 (2)自立心 (3)協同性 (4)感性・想像力の芽生え (5)社会生活との関わり (6)思考力の芽生え (7)自然との関わり・生命尊重 (8)数量や図形、標語や文字などへの関心・感性 (9)言葉による伝え合い (10)豊かな感性と表現

画面上に示すおぼえは、これは、1中2の順につながりますが、必ずしもこの順序で進んでいくとは限りません。また、この順序は、子どもの発達や学びの進捗状況によって、途中で変更される場合があります。この順序は、幼稚園から小学校までの学びの連続性を示すものであり、必ずしもこの順序で進んでいくとは限りません。また、この順序は、子どもの発達や学びの進捗状況によって、途中で変更される場合があります。この順序は、幼稚園から小学校までの学びの連続性を示すものであり、必ずしもこの順序で進んでいくとは限りません。

視点	0～1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	小学1年生
身体・生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> 健康で安全な環境で心地よさを感じる。 正しい生活リズムを整えながら過ごす。 遊びや生活の中で体を動かす。 食品や調理形態に慣れ、食への意欲をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> 意欲的に過ごせるようになる。 身の回りのことを自分でしようとする。 健康な生活リズムを身に付け始める。 楽しんで食事をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣を身に付ける。 身の回りのことや生活に必要なことを自分でしようとする。 食事に興味をもち、食事を楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> 健康や安全に興味をもち、基本的な生活習慣を身に付ける。 身の回りのことや生活に必要なことがわかり、発達しをもって行動しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 健康や安全に興味をもち基本的な生活習慣を身に付け、発達しをもって行動する。 食事を楽しみながら身体と食べ物との関係を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 健康への興味・関心 健康的な生活習慣 学校生活への意欲 食への感謝 食への関心の意
心身の発達	<ul style="list-style-type: none"> 安心感をもって過ごし、穏やかな生活を体験する。 人と触れ合うも心地よさを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 安心感のある生活の中で、信頼関係を築く。 自分の気持ちを安心して表現できるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> 主体的な活動を援助されながら、探索意欲を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達と認め合える信頼関係を築く。 様々な経験を通して自信をもち、 	<ul style="list-style-type: none"> 思いやりや自分の役割について考えをもち、 主体的に活動し、自分に自信をもち、 	<ul style="list-style-type: none"> 主体的な学習態度 自己肯定感や自信 学校や集団生活への安心感 よりよい人間関係の形成
社会・関わり	<ul style="list-style-type: none"> 身近な人と親しみ、関わりを深めて信頼関係を築く。 	<ul style="list-style-type: none"> 大人との安定した関係の中で、友達と過ごす。 	<ul style="list-style-type: none"> 大人や友達と関わりをもち、遊ぶことを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> 身近な友達と関わりを深めるとともに、生活のきまりの大切さに関心をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達と活動する中で共通の目的を見出し、協力してやりとげようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 多様な他者との協働 よりよい人間関係の形成
表現・思考	<ul style="list-style-type: none"> 安心してできる環境で五感を豊かに育て、好きなものや自然の中の遊びを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> 自然と触れ合う中で、様々なことに興味や関心をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> 自然などの身近な環境に関心をもち、遊びや生活に取り入れようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自然など様々な環境に積極的に関わり、工夫を考えたり試したりして遊ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> 自然や身近な環境との関わりの中で感性・想像力・表現力を豊かにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 豊かな感性と思考力 関わりに関心をもつ 好奇心・探究心
言葉・表現	<ul style="list-style-type: none"> 身近な人との関わりを通して、発話を豊かにし、簡単な言葉を理解したり主張が出来るたりする楽しさを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 大人や友達と生活や遊びの中で簡単な言葉のやりとりを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活に必要な言葉がわかり、自分の気持ちを言葉で表す。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の経験や考えを言葉で表わそうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の経験や考えを言葉で表わす。 自分の思いを伝えたり、友達の話を聞いたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の伝えたいことを表現する力 よりよい人間関係の形成
生活・表現	<ul style="list-style-type: none"> 身近な人との関わりを通して、言葉・表情・しぐさで気持ちを表現する。 生活の中で経験したり自分なりに表現したりして、楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> 大人や友達と遊ぶ中で、自分なりのイメージを膨らませ、ごっこ遊びを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> 色々な素材や用具を使い、イメージを広げながら想像力や友達とごっこ遊びを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> 自然や生活の中での様々な出来事を通して、友達とイメージを共有して遊びを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> 伝え合いを大切にしながら感じたことや考えたことを豊かに表わす。 	<ul style="list-style-type: none"> 豊かな想像力 表現したいという思いを基に工夫して表現する力

川越市ときも
学びのプロセス

川越市ときも学びのプロセス

～幼保小 子どもの育ちと学びをつなぐ～

幼児期はあたたかな人間関係の中で、様々な遊びや生活の経験を重ね、「生きる力」の基礎を育んでいます。

家庭と幼稚園・保育所・認定こども園と小学校がつながりをもち、未来をつくる子どもたちのすこやかな育ちを支えましょう。



家庭での子どもの関わり方のヒント

健康な生活

- 十分に体を動かし、好き嫌いをなく食べ、寝る時間や起きる時間を決めて生活することで体が丈夫になり、元気に生活できます。
- できないところは手助けし、できるところはほめて励ますことで、自分で進んで行動できるようになります。

他者との関わり

- 子どもの目を見て話を聞くことで、安心して話せるようになります。
- 毎日できるお手伝いをさせることで、自分に自信をもって生活できるようになります。
- よいこととわるいことを示すことで、どんなことがよいかわるいかを考えながら行動することができるようになります。

興味・関心

- 子どもの「なぜ？」と一緒に考えることで、好奇心や探究心をもっていろいろなものに関わることができるようになります。
- 様々な体験や経験を子どもと一緒にすることで、小学校以降の考える力の土台になります。

子どもたちは、**安心**した環境のなかで、すくすくと**成長**し、**自立**していきます



川越市では、幼保小で連携し、
子どもの育ちと学びをつないでいます



小学校
児童期

生きる力

各学校の創意工夫を生かした特色ある教育活動を通して生きる力を育成します。

豊かな学力 豊かな心 豊かな体

3つの力をバランスよく育みます。

知識及び技能 思考力・判断力・表現力等 学びに向かう力・人間性等

これは、新課程ではありません。この10の項目を共有し、幼児期・児童期のそれぞれに異なる子どもの持ち場を幼児期、保育・教育に活かしています。

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

- | | |
|--------------------------|---------------------------|
| (1) 健康な心と体 | 自分のやりたいことに従って心と体を十分に動かせる子 |
| (2) 自立心 | 最後までやりとげようとする子 |
| (3) 協同性 | 友達と進んでかわり合おうとする子 |
| (4) 進捗性・継続意欲の持生え | 約束やまわりを守ろうとする子 |
| (5) 社会生活との関わり | いろいろな人や家族との関わりを大切にしようとする子 |
| (6) 思考力の持生え | 生活や遊びの中で考えたり気づいたりする子 |
| (7) 自然との関わり・生命尊重 | 自然とかかわりあう大切にしようとする子 |
| (8) 数量や図形、時間や文字などへの関心・感興 | 生活や遊びを通して様々な事象に関心をもちつづける子 |
| (9) 言葉による伝え合い | 言葉による伝え合いを楽しもうとする子 |
| (10) 豊かな表現と表現 | 表現の面白さに気づき楽しく表現しようとする子 |

幼稚園
こども園
保育期

幼児期

生きる力の基礎

遊びを通して3つの力を一体的に育みます。

知識及び技能の基礎 運動・身体・運動等の基礎 学びに向かう人間性等

5領域

これらに示す「ねらい」が総合的に達成されるよう教育を行うことにより、生きる力の基礎を育成します。

健康 健康な心と体・自ら健康で豊かな生活をつくり出す力	人間関係 他の人々と話しあひ、支えあつて生活するための自立心・人と関わる力	探究 疑問の様々な答えに好奇心や探求心をもちて関わり、それらを生活に結び入れていこうとする力	言葉 自分たりの言葉で表現し、相手の話す言葉を知ることによる理解や態度・言葉に即する感覚や言葉で表現する	表現 豊かな感性や表現する力・豊かな創造性
---------------------------------------	---	--	--	---------------------------------

3つの視点

身体的発達 社会的発達 精神的発達

生命の保持・情緒の安定

川越市ときも
学びのプロセス
家庭版



園・小学校の先生方の思い

令和4年度 幼保小連各懇談会アンケート結果より

幼稚園の先生方の思い



- ・懇談会の時間がもう少し長く取れるとよいなと感じました。
- ・懇談会では、幼稚園・保育園・小学校がそれぞれ思いを伝え合い、子供たちにとって今必要な環境をどう整えていくかなど、実のりある話合いを行うことができました。今後も、幼保小がしっかり連携を図り、子供たちの成長を助長していけるよう、環境をつくっていきたいと思います。
- ・園に戻って実践していきたいことがたくさんあると感じたので1年を通して数回幼保小との連携がとれるとよいと思います。

保育園の先生方の思い



- ・子供たちが期待をもって就学することができるよう幼保小連携を密にしていけたらと改めて感じることができました。
- ・今回は1月末でしたが、5月・10月頃の子供の姿や授業の雰囲気も見たいです。
- ・幼稚園・保育園が単なる小学校に入学するための練習をする場から「教育する施設」としてしっかり連携をとっていくことの大切さを感じました。今後は双方を行き来しながらの交流会などもできればいいと感じました。

小学校の先生方の思い



- ・ 幼稚園や保育園の入学前の子供の様子も見てみたいと思いました。
- ・ 小学校入学後の様子を見てもらい、今後のアプローチカリキュラムを見直していく機会があればよいと思いました。小学校側としても引継ぎでわからなかったことも聞ける機会になりますし、双方にとって児童理解や指導につながるのではないかと思います。
- ・ 子供の育成において、幼保小で同じ方向性を目指していくことは、とても重要であると思います。そのためには双方の現状や取組、課題等を共有する話し合い等の場が必要です。

02

令和4・5
年度

川越市幼保小連携モデル指定研究とは？



川越市マスコットキャラクターときも

川越市幼保小連携モデル指定研究趣旨

園・学校間の接続期における児童生徒の不適応の解消を図るとともに、幼児期の教育及び義務教育9年間を通して、必要な資質・能力を育成するため、「幼保小連携モデル指定研究」を行い、その研究の成果を各園・小学校に周知することで「小1プロブレム」の解消や子どもによりよい成長につなげていく。

令和4年度

(1) 研究内容

- ・ 4つの視点を設け、それに基づく手立てを設定し、各園で実践

(2) 研究の視点

- ① 川越市ときも学びのプロセスの視点
- ② 幼保小連携の視点
- ③ 学びに向かう力の視点
- ④ 日々の保育の言語化の視点



第1回幼保小連携モデル指定研究成果発表会にて周知 令和5年10月13日(金)

令和5年度

(1) 研究内容

- ・ 幼保小連携モデル指定園・校及び連携園における連携の在り方

(2) 研究の手立て

- ① 令和4年度の園での研究内容の効果検証を小学校で実施
- ② 幼保小連携会議を年3回開催
- ③ 架け橋期カリキュラムの作成



第2回幼保小連携モデル指定研究成果発表会にて周知 令和6年2月9日(金)

02

架け橋期カ
リキュラム

架け橋期カリキュラム基本方針



川越市マスコットキャラクターときも

架け橋期カリキュラム作成の基本方針

基本方針 1

- ・園のアプローチカリキュラム
小学校のスタートカリキュラム を基盤とする。
- ・「川越市架け橋期カリキュラム共通の視点」を基に話し合い作成する。

基本方針 2

- ・手掛かりは「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」
「育成を目指す資質・能力」を視野に入れ策定。

基本方針 3

- ・進学する先の小学校で、幼稚園・認定こども園・保育園が集まり話し合う。

架け橋期カリキュラム作成の基本方針

基本方針 4

- ・ 実質的な話合いや実践を重視し、架け橋期カリキュラム作成がゴールではなく、幼保小の先生と一緒に振り返って評価し、改善・発展させていく。

ゴール：幼保小での継続的な連携の確立



川越市架け橋期カリキュラム共通の視点

共通の視点として考えられる項目		0歳児～	5歳児	小学校1年生	小学校2年生～
			4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3	4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3	
①期待する子ども像		生活の場・他者との関係・興味や関心の広がり 各発達段階に特有の性質をふまえて「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりとした育成を目標とする 生活の場・他者との関係・興味や関心の広がり 依存から自立へ 各発達段階に特有の性質をふまえて「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりとした育成を目標とする 生活の場・他者との関係・興味や関心の広がり 依存から自立へ			
②遊びや学びのプロセス		様々な遊びや学びの場を 一つの取り組みを通じて 感覚統合 過去の体験のつながり 遊びの中の気持ち 自覚的な学び 自分の方で探求			
③園で展開される活動／小学校の生活科を中心とした各教科等の単元構成等		学びの芽生え 自分と他者の存在の認知 新しい知識を知る楽しさ 遊びを通じた総合的な学び 自然や身近な環境、友達等を介した主体的な学び 児童の思いや願いを生かした学び 生活科を中心とした総合的・関連的な指導による学び			
④指導上の留意事項	先生との関わり 子ども同士の関わり	先生による受動的・応答的な関わり 幼児と先生との関係を中心とした他の幼児との関係の広がり 関わり多様化			
	子どもの学びや生活を豊かにする園の環境の構成・小学校の環境づくり	興味・関心を誘った環境の構成 自分の思いの実現や遊びの発展に配慮 自分の力で学校生活を送り、 自覚的な学びを生み出すような環境に配慮			
	様々なことにチャレンジする気持ちを育てる	見ること・触れること・探検すること を通じての豊かな感覚 「面白い」「不思議」といった感覚 様々な取組を通じた達成感 自分も成長させようとする意志 自分から知ろうとする気持ち			
⑤子供の交流		4年齢集団での交流 異年齢交流の経験 年長としての意識を高め、楽しみながら自主的に活動 行事や異年齢交流の中心 5歳児と小学生が交流する機会を設け、子どもたちの姿を通じた子どもの発達や学びを理解 多様な交流を通して思いやりや共感性、自立心の育成 積極的な友達との関わり			
⑥家庭や地域との連携		家族との触れ合い 愛着の構築 園の行事や散歩等を通じた身近な近所の方たちとの交流 地域の行事等に参加するなど様々な人との関わりが 日頃の子供の成長や育つ家庭と共有			
⑦園と小学校との情報共有		園と小学校との持続可能な連携の確立 園と小学校で入学する子供の指導要録の内容、指導上の配慮等も共有 接続に関する取組を年間計画に位置付け、接続的・発展的な取組 年間を通じた情報交換、意見交換ができるしくみづくり			
⑧「主体的・対話的で深い学び」を生み出す3つの視点		主体的な学びの視点：周囲の環境に興味や関心をもって積極的に働きかけ、積極的に取り組み、自ら活動を選び取って、期待も持ちながら、次につなげる「主体的な学び」 対話的な学びの視点：他者やもの、環境との関わりを深める中で、自分の思いや考えを表現し、考えを出し合ったり、協力したりして自らの関心ある広げ深める「対話的な学び」 深い学びの視点：直接的・間接的な体験の中で子どもが活動し、子ども自らのペースで試行錯誤を繰り返しながら、生活の意味あるものとしてとらえる「深い学び」			

架け橋期
カリキュラム
共通の視点

02

幼保小
連携会議

幼保小連携会議とは？



川越市マスコットキャラクターときも

架け橋期カリキュラム作成の手引き（〇〇幼稚園・保育園・認定こども園/〇〇小学校）

共通の視点	幼稚園	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	小学校2年生
期待する子ども像																										
遊びや学びのプロセス																										
指導上の配慮																										
園で展開される活動/学校の生活科を中心とした各教科等の展開構成																										
子供の交流																										
家庭・地域との連携																										

架け橋期を通してどのような子供を育てたいか。
3要領・指針や学習指導要領で育みたい子供の姿、幼児期の終わりにまでに育ってほしい姿等を踏まえて設定する。

期待する子供像の育成に向けて、子供の姿や発達を踏まえ、遊びや学びのプロセスをどのように深めていくのか。
遊びや学びのプロセスをつながりという視点からどのように捉えるのか考え設定する。

遊びや学びのプロセスを深めるため、先生方の関わり、環境の構成や環境づくりとしてどのような工夫が考えられるか。
子供にとっての教育的価値の視点からその共通性の理解を深める。

期待する子供像の育成に向けて、園の活動と小学校の教科等の教育内容や活動をどのようにつなげていくか。
幼児小で共有に充実を目指す活動や体験を共有する。

交流を通じた学びを深めるため、各園・小学校の年間の活動に、子供同士の交流などをどのように位置づけるか。
交流する対象の年生・学年・交流時期・交流のねらいを共通理解する。

期待する子供像について家庭や地域と共有し、どのように家庭と連携協働していくか。
幼児教育と小学校教育がつながることの意義を共有して、家庭や地域との連携行動について考える。

第1回 幼保小連携会議にて検討
(4月)

第2・3回 幼保小連携会議にて検討
(7・11月)

共通の視点を基に、各園・校で話し合しましょう。



川越市マスコットキャラクターときも

架け橋期カリキュラム作成の手引き

03

令和6
年度

令和6年度の研究内容



川越市マスコットキャラクターときも

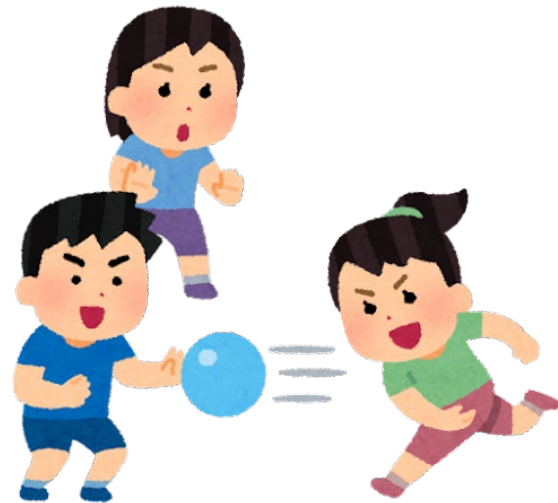
令和6年度

(1) 研究内容

- ・ 学びの連続性をふまえた未来へつながる力の育成

(2) 研究の手立て

- ① 幼保小連携会議を年3回実施
- ② 架け橋期カリキュラムの実施・**検証**・**改善**
- ③ アプローチカリキュラム・スタートカリキュラムの見直し・実施・**検証**・**改善**





幼保小のさらなる連携

令和4～6年度の幼保小連携モデル指定研究の成果を市内園・校にて共有しさらなる連携を図っていく。